

## 第2回徳島県高校教育改革推進本部会議報告

### 議事

#### 平成19年度の高校教育改革の進捗状況について

#### 新しいタイプの学校づくりについて

委員

新しいタイプの学校づくりの検証及び充実についての資料を活用して、今後、総合教育センターの担当指導主事が、学校と関わっていきたいと考えております。

また、総合学科において、生徒の様々な教育ニーズに応えられる講座を開設するためには、ある程度の学校規模が必要です。単位制普通科高校についても同様のことがいえます。また、併設型中高一貫教育校についても、高校部分が最低4クラスはないと、多様な教育の展開が難しいと思います。

しかしながら、生徒数減に伴って、数年経つと小規模化することが予想される高校があります。高校再編を進めていく中で、学校規模の確保の観点から計画を見直していく必要があると思います。

委員

本校の単位制においても、単位制らしい十分な授業展開ができているとは言いがたい状況であり、もっとバリエーションを広げた教育を展開したいと思っています。生徒一人ひとりが自分の時間割を持てることが理想ですが、生徒が徐々に少なくなっていることから、いつまでも単位制のメリットを持続していくことはできないと考えています。

今後、県下全体の単位制高校の有り様をトータルに考え、どこを残し、支援していくかを考えていく必要があると思います。

#### オンリーワンハイスクールパワーアップ事業について

委員

オンリーワンハイスクールパワーアップ事業についてですが、本年度は、当初15校を指定する予定でしたが、各校とも素晴らしい企画であったため、1校増やして16校を指定しました。指定校以外の学校も参加・見学できるようにしながら、11月には体験型成果発表会、2月にはオンリーワンコンテストを開催し、3校が優秀校として選ばれました。普通科高校は、入賞しませんでした。普通科高校においても、スクールアイデンティティを創

造する素晴らしい取組が行われています。

厳しい財政状況から、来年度は規模を縮小せざるを得ませんが、来年度も引き続き事業を続けてまいります。

委員 この事業の指定校選出とコンテストの審査に参加しましたが、プレゼンテーションで審査すると、学科の特性もあり、普通科高校は、専門高校にはかないません。普通科高校には、専門高校とは違った取組の方向があると思いますので、専門高校と普通科高校を分けて審査することも一つの方法ではないかと思います。

委員 私も、同じような感想を持ちました。この事業の審査は、プレゼンテーションによって決まります。専門高校は、発表内容、態度を含め、周到的な準備と練習を行い、素晴らしいプレゼンテーションを行い、選ばれます。例えば、特別支援学校の生徒が、5人並んで発表をすれば、胸を打たれ、定時制の生徒が、一人で発表する姿を見れば、それも感動します。一般の審査員の方は、取組内容よりも、発表に重点をおいて審査してしまう傾向があると感じました。普通科高校を育てる観点から、分けて審査することが必要と思います。

委員 専門高校から、学会で総合教育センターを借りて、研究発表会をしたいという申し出がありました。それを通して、何とかして中学生にアピールしたいという思いがあります。予算がなくても、自分たちは研究発表会をしたいという気持ちがあります。その辺も考えていかなければならないと思います。

委員 オンリーワンハイスクールパワーアップ事業につきましては、ただ今のご意見以外にも、様々なご意見があると伺っております。それらのご意見を踏まえて、今後、検討してまいりたいと考えております。

また、「地域産業の担い手育成プロジェクト」など、国の事業にもしっかりと手を挙げて、オンリーワンハイスクールパワーアップ事業以外においても、専門高校の取組を支援してまいりたいと考えております。

## 学校の適正規模及び適正配置について

委員

現在までの県下7地域における高校再編の進捗状況を説明いたします。

吉野川市・阿波市地域は、鴨島商業高校と阿波農業高校が再編対象校となっております。昨年12月に地域協議会から報告書の提出があり、それを踏まえて再編計画案を作成し、パブリックコメントを実施いたしました。

案においては、商業科と農業科を併置した新しい学校を、平成24年4月に鴨島商業高校の校地に開校することとしておりますが、今後、パブリックコメントの結果を参考にしながら、本年度中に再編計画を策定したいと考えております。

次に、鳴門市地域は、鳴門第一高校と市立鳴門工業高校が再編対象校となっております。昨年12月に地域協議会から、鳴門工業高校の校地を有効活用して、総合学科と県下初の体育科を併置した新しい学校を設置してはどうかという報告書が提出されております。現在、鳴門市教育委員会と協議しているところです。

美馬市・つるぎ町地域は、美馬商業高校と貞光工業高校が再編対象校となっております。貞光工業高校の校地を有効活用して、工業科と商業科を併置した新しい学校を設置する方向で、協議が進んでおります。本日、午後7時から地域協議会が開催され、報告書が取りまとめられる予定であります。

三好市・東みよし町地域の辻高校と三好高校、阿南市地域の阿南工業高校と新野高校の再編統合については、新しい学校の教育内容などについて、地域協議会で協議を進めております。

勝浦郡地域の勝浦高校については、農業教育を基本に、魅力ある学校づくりを図って行く方向で、協議が進んでおります。

那賀町地域的那賀高校については、昨年の11月に活性化計画を策定し、「連携型中高一貫教育の充実」、「コースの再編」、「部活動の活性化」、「地域連携を軸とした活性化」を4つを柱とした活性化策に取り組んでおります。

## 産業教育の振興について

委員

専門高校と産業界との連携を深めないと産業教育の振興は成り立たないと考えております。徳島県の産業振興という大きな流れの中で、産業界や知事部局と一体となって、今後の専門高校のあり方を探っていく必要があると考えております。

そのような視点に立ち、先生方を産業界へ研修に派遣する、インターンシップにより生徒の皆さんが企業で研修をするなどの取組を強化していく必要があります。

現在は、産業教育フェアを切っ掛けに、産業教育として一つにまとまっていますが、バラバラになると減退してしまいます。また、産業界においても、工業だけ農業だけ商業だけでは、成り立たない時代になってきています。教育課程においても、新しい産業の形を模索していかなければなりません。今後、様々なコラボレーションのあり方を考える必要があります。

## 今後の高校教育改革の進め方について

委員

推進計画の5つの柱に基づきたくさんの取組を行っており、教育委員会も学校も大変とは思いますが、今後も教育改革を進めていかなければなりません。教育改革の推進には、生徒、保護者、地域社会の方々の信頼や支援が不可欠であり、教職員がやる気、意欲を持って取り組んでいくことが大切であると考えています。

今回の県南部への中高一貫教育の導入については、教育委員会で意見が分かれたりして、保護者や地域住民はどうなるのか不安を感じたと聞いております。今後、そういった不安を持たせることがないようにしてほしいと思います。

委員

少子化を含めて、財政的な問題などが、予想以上に進んでいるのではないかと思います。財政的に非常に厳しいときであり、最初の『徳島県教育振興基本構想 徳島「学び」プラン21』から撤退せざるを得ない状況であることは、教職員も理解していると思います。今後、県教育委員会と校長会がさらに連携し、状況の変化に対応しながら教育改革を進めていくため、事務局から公開できる情報を提示していただいて、お互いに意見を出し合っていく必要があると考えております。